神戸商大新聞

毎月一回十五日發行

編輯兼印刷發行人窪田安次郎

[illegible]

定價 一部 金五錢 一年分 金五十錢（税共）

廣告料 五號一行 四十錢 記事中指定 六十錢 掲載場所指定 五十錢

發行所 神戸市野崎通一丁目 神戸商業大學新聞部 電話葺合三七番 振替大阪一四六〇六番

秋の勝港に奏でる

大觀艦式の序曲

偲ばれる當日の壯觀

六甲は拜觀所に指定

錦秋好晴空高く山海の景勝に惠まれた我等が神戸、マドロスの都はいま二十二年ぶりに晴の特別大演習觀艦式を迎へるのである。式場は西宮神戸兩市間の海岸線沖合で東西六マイル、南北三マイルに亘る長方形の海面に帝國軍艦の精鋭百九十隻盛裝を整へ御親閲をお受けするのである。偲ばれる當日、二十六日のその壯觀！愉快！都人は鶴首してその日の來るを待ちわびてゐる。常に近代文化のトップを切つてそのシークを歩む神戸は如才なく觀艦式氣分の序曲をいや増して高調しつゝあるが、澄みわたる秋空に一抹の煙を投げかけて轟音高く破裂する煙火の壯觀、けん爛たる商店街、博覽會附近一帶に施された眼もあやな裝飾美、各地から引きも切らず殺到する來觀者に日一日と喧ばしい雜沓に包まれてゆくモダン神戸に輝けるゆゐ一の大學としてその輝き存在を誇りつゝある、わが商大附近一帶は四通八達の幹路にあたり、平日でも東神戸の盛り場にて目まぐるしい通りであるがいまや新開學敷地は博覽會第三會場と化し壯麗なる藝術王國を現出、數十の小アーチは五彩の色鮮かに思はず通行人の眼をとめさせる交通安全週間で整理にあたる少年團の活動かひがひしく打寄せる人の波も嬉々に整然と流れて行く開會頭初より好晴に惠まれ活況を呈した海港博の最後をかざるべき海の盛儀……記念すべき二十六日は目捷の間に迫つた、われ學徒はこの日いかに驚き何にを見るだらうか？

觀艦式當日は時あたかも日曜にあたり特に休日は設けらる事はないが本學職員學生及び凌霜會員は六甲移轉敷地の最下段で拜觀することになつた。尙この地は三段の中最南端に位し何等さへぎる物もなく拜觀には得難い恰好の地で從つて各團體からその借用を懇願されてゐたものである。グラウンド及び商研敷地は縣、市兩當局に提供されることゝなつた右兩當局においては招待狀を發送してそれによる有資格者のみに入場せしむるとのことである

なほ當日凌霜會で會員の家族同伴をも歡迎しこれ等關係者には湯茶の接待をして出來得る限りのサービスを提供する由

◆……博覽會氣分濃厚な商店街附近

豫科問題の其後の展開

小委員會を設置し各種の調査開始

…△問題の具體化尚未だし▽…

先般設立された豫科問題調査會は九月二十二日學生委員室で第一回會合が開かれた、席上十一名を以てする小委員會を設立して調査實務の實際に當らせることゝし爾後小委員會は二十二日、二十六日の二回に亘り開かれたが、その具體的項目と方針に關して委員間に見解の相違があり論議が繰返された關係も同委員中の一部には神戸市長への陳情論を提議する者もあつたが調査委員設立の趣旨は豫科が本學に必要なりや否やの根本問題を調査するにあり、市長への陳情の如きは設置を前提としての議論にして、且小委員會は學生委員會統轄の下にたゞ調査機能を盡くすべきで、かゝる外部への實踐的働きかけをなす權限なしとの總き反撃出で、議論の結果結局左記の項目を調査することゝし後はとり敢ず十月三十日までに小委員の調査の結果を一應取りまとめることゝなつた

一、高等學校教育制度
二、高等商業教育制度
三、東京大阪兩商大豫科に關する調査
四、外國大學制度
五、教育審議會の議事内容
六、各政黨教育改善案の具體的内容
其他である

移轉促進の

狼火高く擧らむ

學部一回生間に要望起り

委員また運動を始む

秀麗なる自然の環境のもとに理想の學園をうち樹つべき本學六甲移轉に關しては本紙がさきに報じたところであるが、その實現の見通し全くつき難く、恐らく第一回生は『ネオ商井ヶ丘ライフ』をおくることなくして學園を去るのやむなきに到るであらう事を熟知した學部一回生は移轉促進に關しより〳〵意見を交換中であるが、『懐しの商井丘』と『ネオ商井ヶ丘』との兩カレッヂ。ライフの樣子になるべき第一回生の使命に鑑みせめて學中あけ半年間を六甲で送りたいと學校當局を鞭韃せんとの意向が濃厚である、仄聞するところによれば過般の教授會議においても滿場一致一回生の卒業式は六甲新學舍で舉行するとの方針が可決されその實現に努力する旨意見の一致をみたといふことである

ただ移轉促進の難點は圖書館を切り離し得ないことであるやうだが學生の下宿が早急に六甲に移ることはこれまた困難である、が故に教室と圖書館の分離による不便は案外少ないと見られてゐる、この間の空氣を諒察しつゝあつた學部の一回生委員は近日學長の東京からの歸神をまつて、その間の事情を明かにし第二學期授業開始を機として具體的運動にうつることゝならう。何れにせよ本問題は、政府の財政緊縮方針が若干修正されることを一般に要求され且失業問題緩和の策として建設工事の要望が漸く擡頭的ならんとする今日可能性なきにあらず、加ふるに時恰も政治季節に入らすとする關係よりして運動の新法如何によつては或ひは意外の効果あるやも知れず今やその成行は相當注目を惹きつゝある

政務次官來校

文部政務次官野村嘉六氏は十四日午前本學に來校、本館其他諸設備を隈なく觀察し休憩後自動車を驅つて六甲敷地に到り完成された地ならし工事の現況を觀察した

學界の好評—

法律經濟文獻

第二輯明年發行

曩に本學商業研究所より發行された法律經濟文獻は千四百頁價格十圓の尨大なもので斯界に得難きものとして珍重され好評嘖々たるものがあつたが今度その第二輯が大正十五年から昭和五年の五ヶ年間に亘る文獻を蒐集して發行されることになつた、發行は來年七月頃で編纂委員として熊谷、田中（金）、生島、柴田、柚木、林、宮下、岡本の諸氏が委囑された

新學期開講

新學期は二十日から始まるが學部で新たに開かれた講座は物價論（鈴木教授）二經濟學史（坂本教授）四保險論（熊谷教授）一四經營統計（平井助教授）一二經濟統計（柴田氏）一四で不定期開講の倉庫論と貨幣論は前者は十一月十日より二十三日迄後者は十二月十五日から一月中旬迄毎日二時間宛講義、講師は内池教授高垣博士である（數字は週の時間數）

國民經濟雜誌

研究會の設立

目下準備計畫中

丘に結んではきえる諸團體の泡沫的存在にあきたらずして永續的に學問愛好の精神を振作する全學生の機關を設けるべく講演部有志富島、西、藤川、井上、島田君等を中心として國民經濟雜誌研究會が甦生されんとしてゐる、同研究會の研究題目は國民經濟雜誌に發表された教授諸氏の論文を以てし該論文に興味を有する一般學生と教授との接觸の機會を作りらしめ他は以て學的雰圍氣を學内に漲釀せんとするにあるが龍頭蛇尾に終つた前轍をふまさる方策として發起人中の當番が責任を以て該論文の徹底的研究を遂げる事になつてをり只一人の出席のみでも時を空費せざる準備を整へる堂々たる意氣込みで目下その甦生の手續きを進めつゝある

經營學會—

今秋東京で開催

十八日より三日間全國大會

丸谷、平井兩氏も講演

第五回日本經營學會東京大會は來る十八日より三日間に亘つて開かれ今回は主として『中小商工業問題』を中心として會員の研究報告が行はれることになつてゐる本學よりの報告者及び演題は左の通り

小賣商の將來　平井助教授
十八日午後一時於明大講堂
景氣政策の基調　丸谷教授
二十日午前十時於東京日日講堂

因みに十八日講演終了後會員のみの討論會が行はれ翌十九日には會員總會及び懇親會が催される筈

商研で開催

關西應用心理學會

小川教授も講演

關西應用心理學會は二十五日から本學商業研究所で開かれる、本學小川教授は『學生の職業心理』と題して一場の講演を試みられることになつてゐる、その他慶應義塾大學及び大阪京都方面の斯學研究者の發表がある筈

時代の問題を提げ

一大聲陣を張る

講演部主催二十五日擧行

大學高專 全國講演大會

講演部主催全國大學高專の講演大會は觀艦式の前日十月二十五日晝夜二回にわたり本學講堂で開かれるがこの度は從前の自由講題による講演をやめあらかじめ問題を定め、この中の論題一題につき選擇して優秀辯士の派遣方を各校に依頼したもので現在まで集まるものすでに二十校を算し、今後の申し込は拒絶のやむなきに到るであらうといふ選ばれた題目は勞働組合法案、失業問題、近代に於ける文藝思潮、婦人問題一般、高等學校論の五にして何れも時の問題の事とて學生講演大會の觀念を破り、學生大衆の絶對的支持をうけるであらう、因みに本學よりは各問題につき一人宛西川、藤川、久住、三島、中村の諸君が出演する筈

原口教授の近況

去る八月下旬再度外遊の途につかれた原口教授はその後なんら長旅の疲勞の色もなく旅行を續けられ到る處の寄航地で本學卒業生の歡迎を受けられ大滿足の由通信があつた

主張

豫科設置論と該問題の地盤

＝七月號凌霜誌 X・Y・Z 氏の所論を中心として＝

松河禮二

豫科問題は現在、一切の過去の行懸りを捨てゝ只純論理的に調査されつゝある。固より設置すべき事を前提とした調査でなく設置さるべきや否やは全然白紙的に吟味の爼上に登りつゝあるのだ。そうした折柄私は此の小論に依つて先人の一部の本問題に對する態度を考察し、その誤りたる豫科設置要望論の地盤を掘撃し度いと思ふ。

私は今夏海外旅行より歸つた二人の親友より意外な事を聞いて一驚した。それは先人の一部の人から『學部の者のみの海外視察ならば斷じて歡迎會を開く筈でなかつた』と放言された事であり、又折角調査事項の依頼に訪問した時、『君は僕等の後輩でない』と輕く一蹴された事を耳にしたからである。私自身も今夏の九州旅行に際し私の出身學校に關して、『なぜあの樣な所から採用したか』といふ批難のあつた事を承知して居る。

かくて、此の種の考へを抱く先人のある事は乍遺憾に事實である事を認めざるを得ない。そうした一部の人々の意見が、凌霜七月號XYZ氏に依つて代表されて居ると見るならば、一言の私見は特に私自身素質低下の槍玉に擧つた『私立大學』の出身者たる事に於て當然許される事と擱ふ。

同氏は言ふ。今日の神戸商大學に豫科は絶對に必要だ、理由は現在の素質低下を防ぐためだ。そして現在の素質低下を説明して曰く、『高商學校第一次志望者は素質劣惡なる者多く第二次志望者にありては言はずもがな』と片つけて居る。今迄私の接した限りにをいて豫科設置を要望する先人及び專門部一部學生諸者の論據は皆この素質低下を置換されて來つた。だが私が得られなかつた如くXYZ氏も亦その素質劣惡が果して如何なる具體的根據に基づくやについて語つて居られない。

凡そ斯の如き重大なる侮辱的烙印を押捺する爲めには、嚴に確實なる提言をのみなし實證を伴はざる事が許されるだらうか。素質の低下が帝大と如何なる點において幾何存するやが實證的に示されない限り我々は文部當局或ひは學校當局の聲明に信頼せざるを得ない。九月十一日始業式當日學長の挨拶中次の一句を看過してはならないであらう。『文部省の調査に依つても入學者の素質は帝大に比し遜色を見ず、且神戸高商のよい所が大學になつてから失はれたとは考へない。』と。更に同氏は、第二の素質低下の要素として第二次入學者を高商に限られず、私立大學及び某々學院出身者を採用した事を數へ、天下の秀才を集めたりと號するもその實績如何？として嘲笑されて居る。だが二期においては他の官立高商と同じ資格に於て此等の者にも入學試驗が施行される事を忘れてはならぬ。此の考試に合格した者は凡て素質劣等と一概に推定さるべきは當然にして、特に私立大學、某々學院出身者の採用に依つて素質低下は高商に限らざりし事より素質低下を由來するとなすは論理の一貫を缺き、その斯る結論を生み出したる筆者の眞意を疑はざるを得ない。

而して、氏の論ずる素質低下論は何等首肯されない此の點よりしてこの豫科設置論は否定さるべきである。殊に以上同氏によつて劣惡者と見做さるゝ二種の在學生にして眞神戸高商出身者に比肩して堂々秀抜なる學業成績を擧げつゝある幾多の俊秀を見る時切に此の感を深くする。

惟ふに斯の如き所論を爲ふる人々には重大なる偏見と誤解がある。所謂、母校を失つた感じ、後繼と思はない考へ方、高商と現商大を別個のものとして意識する人々には特此の感情的誤解がある。要するに高商が商大に昇格された今日、店舖の繁榮が間口の擴張を來し新しき種類の顧客を誘引し來つたに過ぎないもので老舗は依前同じ老舗である。況してや『質實なる高商精神』が豫科生ならば醸成し得て學部生のみなら、得ないとして眞摯なる傳統の擁護の爲めに豫科設くべしと論ずる者有らば、それは自ら傳統の價値を冒す者である。豫科の間に築成せないならば維持し得ない程の傳統ならば傳ふべき價値なきものであらうし、眞に傳ふるにたるべきものならば年齡の如何に依らないからである。

以上今日迄繰返へられ來つた、そしてXYZ氏の曰ゆる如き豫科設置が如上の如き偏見と、他を排擠の埒外に放出する偏狹なる感情的邏斷を地盤とする限り私は斷然として設置絶對反對抗爭運動の第一線に勇躍するに躊躇しない。問題の出發點は先づ此の如き感情の清算にある。

—凌霜七月號の存在を教へられた日—

商研第廿九回講演會

增井.福田両教授の學術講演

「獨占的企業論」と

「獨逸の外資輸入と賠償支拂の將來」

福田助教授は『市場經濟と獨占的企業』の表題の下に大體左の如くのべた

現代の經濟組織は明らかに市場經濟でありそれは經營經濟又は計畫經濟と異り自由競爭の行はるゝものである、然るにこの自由競爭の概念が學者により區々たるために論議を醸した事は從來一再でない

と教授は自由競爭について左の如き説明をなした

ドップ氏は「無階級的自由競爭」と言ふことについてのべてゐる之は都市經濟の初期並びに合衆國の新開地地方において存在したものであつて純粹なる自由競爭である、而して現在存在するものは明らかに資本家的自由競爭である英國產業革命以前には法律的には自由競爭は存在したが該革命後は事實上自由競爭が存在するに至つた、これは潛在的に獨占を含むものである。更に獨占の概念規定については獨占の場合に於てもその純粹な形態が考へられる國家の專賣の如き場合之は未だ純粹獨占とは言へないものである、現代の傾向は獨占的競走又は競定的獨占へと進んでゐる。

中央卸賣市場の單複問題について私は市場合理化の見地より獨占的企業を考へる、故に單數に賛成である、複數論は極度に獨占と言ふ言葉を嫌ふが中央卸賣市場は社會の監視の下に置き社會的獨占への形態を取らしめたならば益々その長所を發揮するものである

と教授の持論單數論は市場經濟の合理化の目的に適ふものであると主張して壇をおりた

（文責在記者）

續いて增井教授登壇、現在の國際政治上のガンたる賠償問題に關し『獨逸の外資輸入と賠償支拂の將來』なる題下で大要左の如き講演を行つた、卽ち先づ講和條約締結以後獨逸の賠償支拂義務に關し現在にいたるまで幾多の會議が開かれ、その經過は迂餘曲折を經てヤングの成立とまでなつた事情を述べられ、まづ賠償問題の本論に入る前にその態度として

問題の發端の歴史を大觀すると二つの階段にわけられる、第一期は講和會議よりドウズ案の成立迄（五ヶ年）の期間であり、獨のインフレーションによる賠償債務支拂の時期である、第二期はドウズ案以後ヤング案の成立まで約五ヶ年間で、この時期を特徴づけるものは外債による支拂である、而して第三の段階として強ひて區別するならばそれはのといふ事が出きる國際政治上の問題として觀察するときは賠償問題は非常に重大な意義をもつが私は國際金融上の問題として取扱つて行きたい

とて問題の意義と觀察點を明らかにした後、ついで賠償支拂の第一期の説明に入り、第一期の問題として當時英國を中心としての聯合國戰債聯引問題の論に入り當時に於けるその事情を述べて

賠償問題の完全なる解決のためには戰債の整理とソヴエットロシヤの國際經濟からの孤立は世界購買力の減少を意味し世界貿易上一支障となり、ひいては獨逸賠償支拂にも影響する所大であるロシヤの孤立的狀態はドイツとの單獨協定後今日まで依然未解決である、ところが戰債問題はその後一九二三年の英米間の協定で一段落つきその他の戰債整理も大體一時的ながらも解決がついた

とて第三の國際主義に基く信用機關の設立は現在國際決濟銀行となつて現れ、又ドウズ案成立の時には八億マークのドウズ外債があつたこと、ついで第二期卽ちヤング案成立迄に生じた主要な問題の檢討としてドイツの支拂能力に關する究明に移りドウズ案による國內的自國貨幣統制度及びそれに基づく引渡し問題に關するケイーンズ、アンダーソン等の學說を引用しつゝ然も事實の發展はこれらのトランスファに關する議論を實證的な問題から逸させたことを述べられ續いてドイツの支拂能力の問題中その外國貿易狀態の檢討としてドイツの輸出品に對する世界需要の伸縮性はどうであるかといふに、これは各國の高關稅障害となつてゐる、從つてこの問題はドイツにとつて悲觀的である、つぎにドイツ國民の生存及び健康維持に必要なる生產力の保持その他産業の合理化は外資輸入で支障なく解決され殘る問題は結局ロシヤの孤立とドイツ商品の需要如何及び聯合國賠償の輕減如何とヤング案に對する影響との三つであらう

尙ほさらにドイツ外國貿易につきあつて貿易狀態の詳細な分析をあげられて賠償問題將來の見透しの基礎を明らかにし尙ほドイツの外資輸入の不可避性をも論ぜられその國際經濟に於ける地位の説明

ドイツの外資輸入の高は一九二四年から二八年の間に大體百八十億乃至百九十億マークでその中長期資金は約六十八億マーク、證券發行は五十五乃至六十億マークでクレディット設定は大約六十億以上である、この三つはほゞ同額である、尙長期資金供給內譯は米國七割、和蘭一割四分、英國一割の割合で輸入してゐる、短期資金について大凡そ同樣であらう

次に外國資金の流用狀態につき大部分は獨逸事業界に入つたこと卽ち合理化資金に役立つたものであることを論ぜられ、さらに獨逸の貿易收支よりみて差當りの國際收支上の缺損は總計四十一億マークに及ぶこと、卽ちドイツは決濟のため外資に頼る外はない事を續々述べられドイツの前途は四十一億の出超は到底短日月で期待し得ざる所以を說き

對話通商はドイツにとつて最も注目に値すべき問題で、賠償支拂の今後の發展上甚だ有利な條件となるものである、その他の見込なく、この事は賠償國にとり考慮すべき點である、

かくて賠償問題の將來の見透しに入り、賠償債權國は自國產業を關稅で保護するか又はドイツ賠償年金の受領に努力するか何れかの態度を必要とする旨強調せられ、賠償問題のガンは世界的不景氣の因でもあり、さらにアメリカの意見が問題の解決に關る重大で世界經濟の方向を決定するものは卽ちアメリカ資本である、而してアメリカの金融資本と產業資本の利益の對立問題はその何れのインタレストがこの方向を決するかであつて今日は產業資本の方が優勢であるがしかし賠償問題の發展および世界の經濟の情勢はかゝる事態の繼續を許さないだらうと結ばれ萬雷の拍手のうちに講演を終つた

（文責在記者）

『筒臺文藝』

—第二號を讀む

岸　參治

階級間の新しい交互關係は新しい問題を提起してゐる。ところが新しい問題はそれに適用する勞作のやり直しを要求し、新しい形式を要求する。今や『勞働階級および其の黨の實踐的エネルギーと理論的思惟のすべてを極度に緊張させる必要がある。目下組織されつゝある尖銳なる階級鬪爭の時期によつて提起されてゐる諸問題に依然として不參加のまゝでゐるやうな理論は、革命的理論を名乘る權利に値ひしない』

ひるがへつて見る同誌文藝は最初から學生インテリの層を對象とする。此事は同誌文藝にとつて最も重要である何故ならそれは同文藝の對象を定め、從つて同文藝の社會的役割を基礎づける一要素となる。

所謂『特權階級』として一見、社會的變化と從交渉の樣な觀然たる學生インテリ層と雖も、之を仔細に觀察すれば其處に徐々ではあるが變轉がある。——而もそれは社會的經濟的狀勢の變化を持つて學生層に於ても階級に於るが如くブルヂョア的反動的學生層と新的進步的の層とが存すると一應考へらる。又其中間に浮動する層もある。此狀態をよく見定めないと數多の危險がある。何か。曰く、社會民主主義だ。俗流的唯物論だ。觀念論（特にベルグソン哲學或ひはフロイド主義）だ。ルンペン化だ。そして又、似而非マルキスト或は獨斷主義だ。

今其等一々に就て詳しくは述べられめから、第二號同誌文藝小說に現はれたる傾向を見やう。小說四つの中（生島先生の分を除く）『進む』以外は全部インテリ中心の小說である。

「導かれ行く者」

二十ページに近い力作である。學生が家庭愛と『階級的正義』との對立に惱む有樣が可成達者な筆致で描かれてゐる。だが其處に前述への樣な危險性を見出し得る。例へば主人公は戀愛との『理論鬪爭』までした後に結局、九十度の方向轉換をなして運動を止める。それが大學の試驗に勉勵して又左傾するだ、と言つた樣な筋だ。インテリらしいゴルキーの『母』の論法だ『おやだけに親があると云ふのか』！だがそれはまだよいとして入學試驗に失敗したのでまた激昂りは險りに甘過ぎた嫌ひがないだらうか又口頭試問に過去の事を聞かれて惱てた舉句『これが現在の教育精神なのかい』と叫ぶに至つては『眞理の春』を讀んだ時の樣な氣持にさせられた。

「れい子を見捨てる」

巧な構成と氣の利いた表現だ。つまり形式的には缺點は無いが内容に一寸不滿がある。戀愛を放棄してルンペン的生活から離れるといふ筋には何等の新鮮味を感じない戀愛と同時に友情も大きな斷絶をなしてゐる樣だ。諸所にインテリ的な風味？が鼻を打つ。

「清算された友情」

筋は前と似たり寄つたりだ。だが文に洗練が足らぬので表現、内容共に推敲を要する。『ブルヂョアを憎んで、しかも觀念的に反抗出來ない、我々良心的、觀念的インテリこそ、實に世に悲慘な存在だ』と云ふ。だが作者はこれに對する解答を與へてゐない。もし作者が此せりふに諦めを含めてゐるとすれば非常に危險である。而も夫に直ぐ續く會話『さうだ、君や僕等のやうに自覺せるインテリはまだ許せると思ふ。』に至つては正に寒心の至りだ！空實で資本主義制度に反感を持つて女給に振られて目覺める筋も幼稚だ。最後に

「進　む」

本號唯一の非インテリ的小說である。觀念ばりの臆測で惡くはないが之を一般プロ小說の水準から批評すれば筋やテーマや構成手法に甚だしく貧弱さを見る。

（以下三枚削除）

經營經濟研究編輯所

經營經濟研究

隔月發行　第五册　定價五十錢　送料六錢

論文
經營學對象再論……村本福松
國際收支に關する若干の考察……金原賢之助
經營概念に就ての一考察 —技術的なるもの及びそれへの類同性のものを中心として—……佐々木吉郎
我國農家經濟に於ける養蠶經營の重要性……井上縫三
市營事業經營上に於ける減債基金に就て……竹中龍雄

紹介
メレロウイッチの經營經濟學……室谷賢治郎

東京 同文館發行 振替東京三一五五五
三省堂賣發

ロバートソン 產業統制論

日本大學教授 經濟學士 井上貞藏
日本大學講師 商學士 大森英治郎 共譯

菊判二一八頁 クロース製 定價壹圓八拾錢 送料十八錢

近年街頭に見る多くの經濟書は徒に部分的檢討にのみ終始し、總括的概念を確把せしむるに足るものが無い。本書は凡ゆる近代社會に於ける經濟現象の諸項に亘りて良く解說批判し、且つ大所高所より之を論述した。產業合理化、勞働組合法等の諸問題の總決算に資する綜合的研究として唯一の書である。

東京市神田區通神保町一
發行所 株式會社 同文館

發賣所 株式會社 三省堂

秋酣は！就職戰線 漸く白熱の時機に入る

昨年度卒業生の行衛

混亂、不安、來春の情勢をどう見る？

不景氣が世界的となり容易に恢復しさうもない昨今の狀態では來年學窓を出て實社會の荒波の渦まくなかに飛び込まんとする青春の學徒はどう擧措するやら？今から考へねばならぬ事にとつて、卒業が即ち失業と來た日こそ實によそ身にも憐惜であらう、さて本學の現在までの情勢は好景氣時代から近年次第に就職率が低下してゐることは大凡そ何人にも見當のつくところであるが、これも時の趨勢と思へば止むを得ないことであらう

學生の最も難物とする學期試驗も今日ですつかり終つた、秋の陽はさん〳〵と試驗に疲勞困憊した吾人の頭腦にふりそゝぐ、秋晴れの澄みきつた大空を仰いでうんと力一杯背のびしサアこれから何うして遊んでやらうかなアと陰氣だつた試驗の鬱憤晴らしを考へるが、やれ合理化だ、緊縮だと沈滯しきつた不況の實業界にとび込まうとする本學生二百六名には食ふに困らないブル學生ならいざしらず混亂・不安の渦まいてゐる就職戰線へといざ立たんと勇躍？しなければならぬ身のなんと陰うつに緊張した秋の日よ、だが他校ではもう就職依頼狀を出して準備にをさ〳〵怠りない、時は容赦なく就職戰線の白熱化をもたらしつゝある、かゝる時本學では現在どんな樣子であり果して如何なる成算ありや一日まづ本學內の情報本部庶務課へと主動的情勢これいかにと偵察に出かける、篠田老書記は次のやうに語つた

まだ就職依頼狀は發送してゐません、例年は一月頃に出すのですが今年は來月下旬あたり發送するつもりです、今度は去年より一層就職が困難だらうと思ひます云々

さて今春巣立ちした第二十四回生百八十五名はどこへ行つたか？それを調べてみると

就職者	百三名	五六パーセント
未就職	七四名	四〇パーセント
進　學	八　名	四パーセント

である、しかし右の數字は學校當局へ報告した就職者のみで自營及び報告してこない者などが除外されてゐるそれで不備足ながらもまあざつと大部分は落ちついてゐるだらうと同氏の語るところである

本學々生の學資狀態は？

相互的扶助精神が大

他學に比し良好

學生課では昨年來學生の生計調査を行ひ學資關係を調査してゐたが現在の學部第二回生を除き殆ど全學生にわたるものでこの程その大要が發表された、即ち學生の約二十五パーセントが學資不足を告げその三分の二が貸費、給費、家庭教師その他の內職により補給を受け三分の一が現在尚學資に不足しつゝある狀態である、なほ昭和四年度以降學資困難にして休學せしと認めらるゝもの合計二十七人あり退學二十人休學七人である（但し昭和四年度十三人、五年度十四人）右の狀態を他の諸大學に比すれば本學々生の學資不足者は遙かに少い事を示してゐるもので學生の家庭狀況の一端が窺はれる、家庭教師その他の內職の斡旋は學生課で鋭意盡力してゐるが內々學生相互の間で內職を見出してゐる向きも少くないと云ふ相互扶助の精神の顯れてゐることは學風としても喜ばしい現象である、學生課ではその他方面委員にこの種の周旋を依頼し、すでに相當の効果を收めてゐる狀態である、なほ方面委員には學生の生計狀態を理解し同情ある寄附をせられた篤志家もあると

修學旅行を廢し 運動週間を設定

今月末から來月四日まで

運動部の總動員計畫

從來每年第二學期の初めに行はれた修學旅行は、實質上參加者が少く種々批難もあつた事とてかねてよりこれにかはるべき對策がねられつゝあつたが、この程學生委員會で具體的にその代案が決定した即ちこの種計畫の目標は學生大衆の體育向上にあることゝて、本年はスポーツ大衆化の流れにさをさしてアマチュア、スポーツ、ウイークを設けてこの運動週間運動部の總動員をなして各種競技大會を開くことゝなつた、目下の計畫によると期間は十月三十日から十一月四日迄で出來得るかぎり參加者を多く集めることを第一とし、出場者には記念手拭を贈るはずでこの圖案は懸賞により募集されてゐる（〆切日二十二日締切）尚ほ今夏學園のスポーツ大會大衆化のトップを切つた軟式野球大會は體操科多田助教授のきも入りで本週間でも最大の行事とすべく學長賜盃を中心として第一回優勝者K・M・S俱樂部、强豪甲陵俱樂部、老巧白線俱樂部、新進向上俱樂部等の壯烈なるシイ、ソー、ゲームの數々が展開されるであらう、又一方には秋晴れの白線をめぐつて庭球部主催の下に軟式庭球ダブル試合が行はれる豫定で、この優勝組にも學長カップが贈られるとのことである、その他卓球、排球、籃球、弓道、劍道、柔道の各校內大會も開かれることゝて丘をあげて潑溂と跳舞に青春の血潮がもられることだらう。

單複に優勝し 覇者の地位を確保

關西學生庭球戰々績

九月九日から始まつた關西インターカレツヂトーナメントに於ける本學庭球部の活躍は目覺しかつたシングルス、ベストエイトのシードの布井、桑原、木塚、石井と四人ダブルス、ベストフォアに布井桑原組、石井、眞野組、關井、木塚組の三つが加はり戰前既に他校を壓した、結局布井がシングルスに布井、桑原組がダブルスに優勝し數年來の覇權を奪還した

シングルス　眞野は關學の堀越をストレートに破つたが甲南の伊藤に破れ、杉森は第四回戰に伊藤に惜敗した。布井は京大宇野、關學木谷、本學關井に勝ち、桑原は關學の山田、鶴原、甲南伊藤に勝つて共に優勝戰に進んだ、桑原と伊藤のゲームは本トーナメントの白眉で力戰三時間スコアの示す如く稀に見る大試合だつた。

六—二　八—十

桑原　六—八　六—二　伊藤
六—一

優勝戰は同志打ちとも思はれぬ緊張した試合であつたが、結局ボレーに優れた布井の勝利に歸した

布井　六—四　六—四　桑原
七—五　二—六

ダブルス　石井眞野組は京大の長谷川、大原組に破れ、關井木塚組は木塚ケイレンの爲め甲南の伊藤兄弟組に勝を讓つたが布井桑原組は巧技に堂々と勝進み、決勝戰は關學堀越鶴原組との間に行はれた。

布井　四—六　三—六　堀越
桑原　六—四　六—四　鶴原
六—二

最初の二セットを奪はれ、一セット取返した後四—一と堀越組のリードになり、フォーティファイブとなつた時には全く絕望かと見えたが、此の危地をのがれて五ゲームを續けて勝つたあたり流石に覇者の貫祿である、ファイナルセツトは布井、桑原當り、問題なく勝つた。

關西選手權決勝會

九月十六日六時から大阪市曾根崎むさし本店で、シングル、ダブルの兩關西選手權獲得の祝勝會が開らかれた、出席者三十二名、先輩中島羽氏、上海選手權保持者本田氏島山氏、宮田氏等の出席あり盛會であつた

東日庭球戰に 布井、佐藤に敗る

第十一回東日トーナメントは二十七日から東京上井草及早大コートで擧行、布井、關井、木塚の三選手が遠征出場した。關井はポプラの鈴木を破り四回戰まで進んだが早大辻にやぶる。木塚は早大林、大井クラブ岡崎等に勝ち第五回戰早大佐藤に六—三六—二にて惜敗、布井早大選手を一蹴し準々決勝には六—三、六—四、十一—九で川地（早）を準決勝には六—〇、六—二、六—三で伊藤（甲南）を夫々ストレートで破つたが決勝戰には佐藤に會ひ接戰の末負けたのはやむを得ない。

佐藤　六—一　六—〇　布井
四—六　七—五

ダブルスは關井、木塚組は第五回戰（慶大）山岸・志村組に布井、伊藤（甲南）組は辻山岡（早大）にストレートでつぶれた。

尚十一月初旬行はれるオールジヤパン選手權大會に、本學より何人出場資格を得るやはまだ確定して居ないが、部員一同之に備えて猛練習中である

想ひ出の中歐 國際經濟の研鑽

▼…生島教授（寫）歸朝さる

五彩のテープの拗纏たる交歡裡に絢爛の如き歡送の波を浴て生島廣次郎先生がハルムス教授住むキール大學へ旅立たれたのは一昨年四月であつた、同大學附屬世界經濟及び海運研究所の研究室の一角から靜かに推移する世界經濟の狀勢を凝視されつゝあつた先生は、その後歐洲各地になつかしき數々の足跡を印しながら米國を經て八月十六日歸朝された、チエリをパイプに、番茶を口に、以下先生の語られたるはしの數語を讀者と共に拜聽しよう。

私は當初の希望通りマルセーユに上陸するや一路、キイルに向ひました、天惠豐に獨逸でも最も風光明媚とされたこの町の大學に一年半しかもハルムス及ルーペ兩教授の理解深き指導の下に思ひ出の研究生活を送りました。研究題目はハルムス教授に世界經濟を、動態經濟はルーペ教授でした、こゝの大學教授はベルリン大學の老大家揃ひにひし實に若き學徒の

新進氣鋭

を集めてゐます、そして特長としてあげられる點は研究所の講演會です、ディール、シュパン、シュムペーター等學界に高き名聲をたゝへられる人々や或は實際家に願つて一人宛講演を頼み終了後教授學生と講演者間に質問討論が行はれる事です。シュパンなどもその抱懷するウニヴァサリズムについては大に論難され弱つてゐましたよ、でもさすがにシユムペーターには感心しました、諄々として

透徹せる

論理に誤らざる問題の全面性をゐかんなく說明するあたりは大に敬服しました

來春一日本學へもやがて訪れる獨儒シュムペーター氏とわれ等の若き生島先生との再會こそは、ありしキール、ライフを再現せしめる喜びを先生に與へることだらう先生がキールを離れられたのは昨年十一月である、そして目まぐるしいその後の先生の大學巡歷と研究資料蒐集の旅路はそれより續く、ネッカの流れと

古城

に夕映を仰ぐアルトハイデルベルヒにカールハインツを偲びつゝビールの滿をひかれたこともある、バーゼルに到つては國際銀行を訪問されジュネーブ滯在中に國際勞働會議所謂の數日を過ごされたこともある、更にジードと一夕膝つき合せ佛國の現在未來を論じられたこともあつた、それより、波高き大西洋を七月の船旅に托して北米に渡られたいま祖國に歸り徹底の整理を終へられた先生の胸中を去來するものは、曰く汎ヨーロツパと國際聯盟の關係であり、トリアノ條約改正問題を中心としたハンガリーとルーマニア紛糾のその後の形勢であり、曰く

獨裁

治下ファシストの國際貸借改善策への努力であらう、更に佛伊の不和、英國の對策の見通しとその失業の特殊性等實に先生の解明と分析を俟つべき多くの問題が殘されてゐる、キール大學研究所の發刊による『世界經濟雜誌』の幾冊かにその深き研究の一端を披瀝された先生の精進は如上の分野に於ても學界の待望を充分滿されるの日近きにあるを確信するものである

—寫眞說明—

（上）留學中に遊せる內池教授をハンブルグ停車場に迎ふる生島氏（右）內池教授左は氏と前後して歸朝せる本學の柴田氏（中）氏がキイル大學在留中宿泊せるモルトケストラーセのホール（下）國際經濟研究所

教授文獻

▼ソヴエートロシアに於ける配給制度の變遷（一）　國民經濟十月　福田敬太郎

▼流通生活に於ける經濟的計畫（二完）　國民經濟十月　丸谷喜市

▼公企業概念の重要性（二）　國民經濟十月　北村五良

▼判例に映る民法（四）　國民經濟十月　柚木馨

▼最近の破產法及和議統計（會計十月）　齋藤常三郎

競技部

關西學生競技に 本學四等となる

一萬米に優勝し 矢柴、商神歌 甲子園に響く

第十四回關西學生陸上競技對抗戰大會は九月二十七、八の兩日秋晴れの好天氣に惠まれて甲子園で行はれた、參加校十七校、參加選手二百三十六名、本學は主將荒木以下十名對學戰の除勝を賭つて奮闘し殊に第二日には一萬米決勝で矢柴優勝しセンターポールに高く部旗をひるがへした、荒木又百、二百に於て京大相澤に肉迫して氣を吐いた、樋渡の奮戰、野口の走高跳が豫期に反したのはおしい結局總點三十三點半で關學、甲南を押へて四等となる、得點左の如し、

百米　三等荒木　五等大井（六點）
二百米　二等荒木（五點）
（右の一着は共に京大相澤）
千五百米　二等矢柴（五點）
一萬米　一等矢柴
三七分三七秒八（六點）
一哩リレー　五等（二點）
四百リレー　四等（三點）
砲丸投　三等樋渡
六等山上（五點）
走高飛　四等野口
內藤（二點半）

近畿豫選に 活躍す

大阪體協主催第九回全日本陸上競技選手權大會近畿豫選（十月四日五日）に本學から荒木、野口、矢柴、山上等出場、荒木は百米では南部をよく追つたがおしくも二着二百米には二三秒にて見事優勝した矢柴は千五百米で强剛に混つて奮戰四等となり、野口は走高跳に二等（一米七三）棒跳に三等（六米五五）を得た、山上も十種に出場よく頑張つたが後半拔勞の爲棄權した

馬術部の 九州遠征

既報の如く九州に遠征した馬術部員は九月二十四日久留米騎兵隊に開かれた日本學生馬術協會九州支部主催の全日本學生馬術大會に出場、關聯競技（障碍）においては惜しくも四百四十點で五等となつたが一等ですら四百五十七點でその差は僅少で競技は頗る接戰、技術にも差はなかつた、本部選手は鯉住、安東、山口、尾上、村島の五人、個人競技では馬場馬術に鯉住三等、障碍に安東三等を得た

尚十一月二日、三日に東京で行はれる神宮奉納競技學生の部に山口、尾上、鯉住の三人が派遣される由

排球部の豫定

排球部は十月十七日甲子園コートに開かれる全日本排球選手權大會關西豫選に出場、之に優勝の上十一月二日三日東京に於て擧行される全日本選手權大會に出場の豫定

何と云つても
すきなら三輪
すき燒と
御料理
相生町
三ツ輪

ナンセンス— 試驗 試驗彼等達

暮三郎

彼は夜、ろく〳〵眠らないで勉强を續けてゐる。參考書ももう何度も讀んだ。そして今では『猛烈勉强法』といふ本を猛烈に勉强してゐる。

×

試驗場に入つてから彼はノートの目次だけ讀んで安心したやうな顏をしてゐた。問題が配られてガッカリしてゐた。

×

悠々と十分もたゝぬ間に席を離れて出て行つた彼はすごい頭の持主ではないか、何故ならこの問題解答に及ばずと記してあつた。

×

彼は先程から小便が出さうでたまらない、推理だけはとつくに小便にとかわつてしまつて困るらしいやつとのことで便所まで行けば小便は出なかつた彼は試驗時間中はいゝなあと思つた即ち每日、學校は午前中でおしまひだからである。

×

彼は確に勉强した然るに解答たるや不成績の極みである、彼思へらく實力を出すのには餘りに脆弱なりしと。

×

彼は試驗場で鼻血を流したが頑張つてその日の課目をおへた彼等達曰く俺だつたら先生に泣き込むんだがなあ。

×

彼は試驗の前一週間から興奮しつゞけた、彼の周圍の人にすべてこの興奮を投げつけて居た相手が共に興奮すると彼はやゝ冷靜に返るが興奮しない時はこれでもかく〳〵とばかり自分で興奮して見せた。

×

彼は試驗がはじまると僅の時間を利用すると云つて活動を見に行つたりした。その癖彼の大部分の時間は無駄に過ごされて居るのだつた。

×

彼は試驗になつて、うんと參考書を買ひこんだが全部讀めないうちに試驗は濟んだ彼曰くこれだけ勉强したと思つたらいゝんだ。

▼凌霜會員に告ぐ

會員諸賢の可及的多數が『神戸商大新聞』を購讀されんことを望んで止まぬ、諸氏は卒業後母校の情勢については殆ど知ることはないであらう。殊に學校行政、學內の諸種の出來事或は學友會の動きについて知るところ少く、隔月發行の雜誌『凌霜』には單なる彙報程度の報告あるのみでこれだけでは充分でないであらう、母校を知らんとする者は新聞を讀まれ度く部の財政困難を援助する意味で此際できるだけ多數が購讀をして戴きたい、料金は一年分五十錢二ヶ年分（一圓）の申し込を望んでゐる、申し込は大阪一四六〇六番（神戸商大新聞部）の振替口座へ振替にて新聞購讀の旨記載して拂込まれたい、部としては會員全部に無料で新聞を配布することは財政上許されない狀態であるから前納の方は至急納入相成度今後あらゆる方面に於て會員諸賢の支持援助をのぞんで止まない

新聞部

インターカレッチ

▽北海道帝大　理學部設置のために大正十一年來猛運動を續けてきたが遂に努力が酬ひられて去月二十七日盛大な開學式が行はれた、部長は眞島博士に決定した

▽京都帝大　會費未納者漸增のため解散か校費支辨かの兩論ごろ〳〵其成行を注目された學友會問題は臨時總務委員會で新城會長の說得により實行豫算案一割天引を承認した

[illegible]のシャツポをとつた荒木前總長の半身像が正門玄關附近に建てられた、除幕式は十一月中旬

▽東京商大　國立の新校舍はまだ完備せず雨が降れば構內沼と化しその上控所も出來てないので學生間に時期尙早の不滿の聲が高い

▽關西學院　移轉披露をかねた大記念祭が來る十七日盛大に擧行される

部告

○本號は都合で臨時二頁とした。次號よりは從來通り四頁で充實した內容とフレッシュな質に學生大衆の要求を反映したものを發行して躍進を期してゐる

○申請中であつた第三種郵便物の認可願が愈よ許可となつた。今後は五厘で發送し得ること念のためお傳へして置く

× ×

原稿募集—丘人一般及び凌霜會員諸氏より原稿を募る、內容は隨意なるべく（時事に關したもの可）但し紙數は論文その他は新聞部原稿用紙二十枚（三千字）以內、原稿取捨は當方御一任の事

地下室

秋晴れの一週を期して『運動週間』を催す—文部省が惱みぬいてゐるといふ學生思想善導はこゝに一つの發現形態を見出すとされスポーツの大衆化と錯らうはあまりにも早計、おもふに事物の本質を見究めずして現象の形態のみにては海のものとも山のものとも判斷しかねる、本質的に異なるときは假令形がいかほど似てもそれはあくまでも似て非なるもの。

◆

試驗で學生がウン〳〵惱んでゐるときは教授たちにとつては時こそ到れりでまさに天下泰平、ひとつテニスでもやらうかッ！それとも碁か……

◆

十日も一氣につゞく試驗施行はとかく心身を害す、病氣になると途中落伍者の出る事は必然多からざるを得ぬ。追試驗制度も全く學生にとつては眞實の利益とのみ言へぬ

◆

制度そのものを前提して考ふるとき、十日間ぶつ通しのそれは何としても學生には痛手である、試驗分期制の要望口にせらるゝ、又宜なるかな

靴はその
はき心地
靴
電話三宮 二三四三
神戸 山野靴店 元町一丁目

美味王國
西洋料理
東陽軒
神戸市元町通八十番
電話三宮 一二九二番

活版
石版
美術印刷
中外印刷株式會社
神戸市吾妻通三丁目
電話葺合一三九四番

兼松記念館食堂出張
地下室食堂
太陽軒
西洋御料理
神戸市仲町三十五番 十五ビル地下室 電三宮1623
定食（晝…￥120 夜…￥180）

眼鏡專門
歐米製造直輸入
兜印眼鏡
關西賣捌店
カフトヤ眼鏡舖
神戸市坂口通四丁目六 阪急終點西一丁目濱側

實質
本位
本店
高級酒場
新開地
花隈町
百万両
支店
和食堂酒場
上筒井市電終點
阪急バス乘場前

良書拂底
値段よく
長い休みもすみました……
健全な皆樣ご見えることを心から喜ぶ次第です
買受ます
上筒井通四丁目山側
大崎書店

アイスクリームの
天ぷら
是非御試食下さい
聞イテ、笑ツテ、驚イテ
來テ、見テ、喰テ、批評チ
マリプ
上筒井終點南側

たぬき
たぬき支店